

日本応用地質学会東北支部  
「平成6年度総会」開催報告

中 里 俊 行

平成6年度日本応用地質学会東北支部による総会が下記の内容で開催されました。

協 賛：東北地質調査業協会

日 時：平成6年5月20日（金）

15：30～17：00

会 場：宮城県労働福祉会館

参加者：87名

内 容：支部総会は、成田賢氏の総合司会により支部長の北村先生の挨拶で定刻よりやや遅れて開始され、まず初めに特別講演が、次いで総会議事が行われました。

特別講演は、以前、三春ダム工事事務所長であり、当支部の平成5年度見学会において、みずから三春ダムを御案内していただいた現(財)水資源協会開発研究部長の大藪勝美氏が、「ダム設計と地質調査」について、ダム一筋の豊富な経験を基に地質調査等に携わる私どもにとって有意義なお話をされました。

講演は、土木屋の立場から、ダムを築造する上で、地質屋は地質構造の成因とその的確な把握（地質上の

弱層の分布性状と強度）が最も重要な仕事であり、設計技術者と十分な意志疎通と密接な連携をとることが肝要であることを終始力説されました。

はじめに、ダムの作用する重荷とその特殊性について設計の基本とすることに触れて、地質技術者はある程度設計について理解しておくことが必要であること、設計が煮詰まっていくに伴って見落としのない調査の精度が求められており、ダム基礎岩盤としての強度や透水性の問題点について、設計サイドと突っ込んだ議論をすることにより、より安全なダムサイトの選定とダム設計ができることを強調された。

このようなことを、スライドにより、中央構造線の結晶片岩および蛇紋岩地帯、九州地方の花岡岩や第四紀安山岩分布域、また、秩父帯のチャート・スレート・シャルスタインおよび第三紀層の砂岩・泥岩互層などの塊状岩盤、硬軟互層状の層状

岩盤、熱水変質した劣化岩盤など多数の事例をあげて、各種の地質毎にその特殊性を整理し、設計方針と設計例が分かり易く紹介されました。

さらに、スライドの最後の方では、東アフリカのRift Vallyや台湾での地質特性についてもユーモアを混じえながらお話されました。

終わりに、ダムの地質調査において、地質技術者としての目ざす方向について再度力説されて講演を締めくくられました。

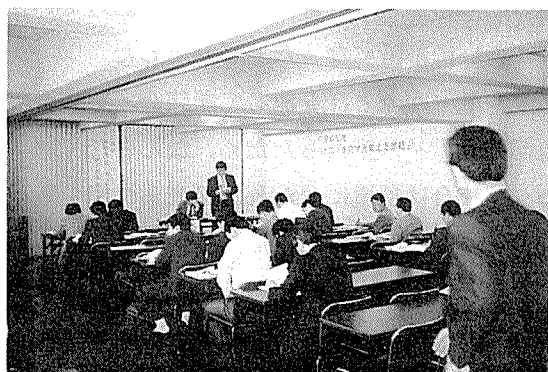
引き続き、支部長の北村先生を議長に総会に移り、平成5年度活動報

告・会計報告と平成6年度活動計画(案)・会計予算(案)・役員人事の順に議事が滞りなく進行し、満場により承認されて終了しました。

懇親会：会館の階下に会場を写し、33名の参加により盛大に懇親会が催されました。講演者の大藪氏や支部長の北村先生、副支部長の田野先生を囲み、先の講演への質問などを混じえながら参加者一同なごやかな雰囲気で行われ、監査委員の藤島氏の乾杯でお開きとなりました。

以上

(株)ダイヤコンサルタント



総会風景



特別講演の大藪氏



元気な姿で議長役を務める北村支部長